

「ブルーカーボン講演会」が開催されました

北海道開発局 留萌開発建設部 築港課

令和4年9月29日(木)、留萌開発建設部は2050年カーボンニュートラルに向けた有効な吸収源対策の一つであるブルーカーボン生態系に着目し、管内におけるブルーカーボンの取組を後押しするため、留萌開発建設部会議室で「ブルーカーボン講演会」を開催しました。

はじめに、平井 康幸留萌開発建設部長より、「地域のブルーカーボンの取組を推進するには、国や自治体だけではなく、漁業関係者、民間企業、市民団体など多様な主体の皆様との連携が必要であり、様々な取組を後押ししたい」と開会の挨拶がありました。

続いて、ブルーカーボン研究の第一人者である国立研究開発法人海上・港湾・空港技術研究所 港湾空港技術研究所 沿岸環境研究グループ長の桑江 朝比呂氏より、「Jブルークレジット®について」と題した講演をいただきました。

講演では、社会実装を進めるためのヒト・モノ・カネ・シクミ、クレジット認証申請の要件として、「気候変動対策をも目的として自主的に事業を開始・変更した追加性のある活動」の必要性や増毛町海岸の藻場

再生などの事例紹介があり、加えて、今まで実施している漁業と気候変動対策を両立して発展させることもできることから、多くの方々にブルーカーボンの取組にご参加いただきたい」とのお言葉がありました。

質疑では、留萌港内で計画するブルーカーボンの取組推進に向けた藻場の調査方法、気候変動対策としての追加性の判断及び希少種海藻の環境価値などについて、予定時間を超過するほどに議論が交わされました。

今回の講演会は、ブルーカーボンの取組を担う可能性がある北海道留萌振興局、管内沿岸の自治体及び漁業協同組合の方々にご案内し、会場27名、WEB配信13名の参加がありました。会場には、山口北海道留萌振興局副局長、中西留萌市長及び堀増毛町長にもご出席いただくなど留萌地域の関心の高さがうかがえました。また、講演会終了後、参加者から「講演内容がわかりやすくブルーカーボンに対する理解を深められた」などの声が聞かれました。

これからのブルーカーボン生態系の創出や再生、Jブルークレジットを導入したさらなる取組の活発化により、カーボンニュートラル社会の実現が期待されます。



桑江沿岸環境グループ長によるご講演



参加者による質疑